

会 議 録

1 会議名

第2回上越市青少年健全育成センター運営協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）
- (2) 若者支援事業の進捗状況（公開）
- (3) 情報交換（公開）
- (4) その他（公開）

3 開催日時

令和2年10月16日（金） 午後2時から

4 開催場所

上越市教育プラザ研修棟3階 大会議室

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：飯塚 裕，伊藤大助，井部佐恵子，山本克志，阿部利夫，小林 榮，
小山貞榮，古川美也子，本間久美子，鈴木真理子，大堀みき，
吉岡智信

・事務局：社会教育課 小嶋課長

青少年健全育成センター 山崎所長， 曾我指導員

8 発言の内容（要旨）

- (1) 青少年健全育成センター事業の進捗状況（4月～9月）（公開）

・事務局より資料1～4に基づいて説明（資料参照）

資料1 令和2年度運営方針、活動事業計画（資料P1～2）

資料2 街頭指導の実施状況（資料P3～5）

資料3 特別街頭指導の実施状況（資料P6）

資料4 PTA一日街頭指導の実施状況（資料P7）

<質疑>

伊藤委員：

特別街頭指導について、第1回が行われた7月10日には当校の職員も参加したが、高校の試験日と重なったためあまり生徒がいなかったと聞いている。せっかく集まって指導する機会なので、日程についてうまく調整した方がよいと思う。

事務局：

当日の街頭指導後の振り返りの時にも同様の感想や意見が出されていた。実は第2回を実施した10月9日も2つの高校でマラソン大会が実施され、通常とは違った下校時間になり、少し生徒の数が少なかった。例年、年度初めに実施日を決めているが、その際各高校に確認をとり行事日と重ならないように調整を図っていきたいと思う。

吉岡委員：

街頭指導記録表の中のゲーム機遊びについて、昨今の情勢として親子連れでゲーム場に来ているケースが多いという話があったが、この数字だけ見ると子どもたちだけで出入りしているのではないかと受け取られてしまう。子どもだけで来ているのか、親子連れで来ているのかが分かるような指標を用いて表すことはできないか。

事務局：

この表中に出ている数字は実際にゲームセンターいた子どもの人数を表しているものではない。街頭指導の中で直接声掛けや指導をした人数である。そのため、ゲームセンターに何人いたかという実態をストレートに表してはいない。また、ご指摘のように、親子連れなのか子どもたちだけなのかという数字もはっきりと出てはいない。ただし、ここに数字で上がっている子どもたちは、親と一緒にいないケースの子どもたちである。その中には親と一緒に来ているが、親は子どもと離れた所で夢中になってゲームをしており、子どもたちだけで行動をしているというケースがある。また、本当に子どもたちだけで来ているというケースも含まれる。市内の小・中学校では、子ども同士だけではゲームセンター等に行かないようにと指導をしているので、それでも子どもだけで来ている場合は指導の対象としている。ところで、青少年健全育成委員

の皆さんが街頭指導を続けている中で「ゲームセンターの雰囲気は昔と変わってきている」という感想が寄せられている。昔は、ゲームセンターがいろいろな問題行動が起こる場所だったものが、現在では親子連れで楽しく遊びに来ている場所に変ってきている。街頭指導の集計の際に、そのような変容が数字上にも表れるような項目があれば良いのではないかと思う。

本間委員：

実際に育成委員として街頭指導をしている立場として補足する。私たちもゲームセンターの営業の邪魔にならない程度に指導しており、「無駄遣いせずに早めに帰るように」などと声掛けをしている。事務局の話にあったように、ゲームセンター内は問題行動も見られず明るい雰囲気になっている。私たちも子どもたちとコミュニケーションを取りながら指導している。また、ここに出ているのは子どもたちだけでいる数字で、親子で居る場合には数字として出していない。

大堀委員：

カラオケもいい遊び場だと思うが、中学生同士ではカラオケに行っていないとう学校の指導はあるのか。また、街頭指導の際には全然見られなかったのか。高校生は夏休みに限らず、かなりカラオケに行っているものなのか。表中の数字はゼロなのだが、実態はどうなっているのか。

事務局：

高校生はカラオケ店に行っていると思う。青少年健全育成委員がカラオケ店に入り受付で店員の方に話を聞くことはあるが、個室まで入って指導するわけではないので、指導人数としては出てこない。ただし、外に高校のステッカーが貼られた自転車が停められているので、今日は何人くらい入っているということが分かる。カラオケ遊びの項目についても直接声掛けや指導した人数をカウントしているので、実際に何人いたかという数字が反映されているわけではない。例えば、街頭指導でカラオケ店に行き、受付で話を聞いた際に「実はこういうことで困っている」という話があり、もし近くに高校生がいれば指導する場合はある。しかし、現在そこまで問題になっているケースはなく、比較的マナー良く使っているのではないかと思う。また、中学生については中学生同士だけで行くことは一応禁止となっている。街頭指導

のコメント欄に「中高生が多い」という話があるが、これは店の方から聞いた話だと思う。具体的に中学生がどれくらいいたのか、それが、実際に子どもたちだけで行っていたのか家族で行っていたのかは分からない。普段の街頭指導の中で上がってくる情報としては、中学生同士だけで行っているという話は聞いていない。もし、その実態が分かる方がいれば教えていただきたい。

大堀委員：

カラオケ店について、昔は暗いイメージで犯罪の温床というイメージもあったが、最近は本当に親子連れが多く、ストレスの発散場所として高校生にとっても良い遊び場所のようになっている。声掛けするとしたら、「遅くならないように。」という程度ではないかと思う。

小林委員：

カラオケもゲームセンターも、ひと昔前は、行くこと自体が悪というふうにとらえる話もあったが、今は雰囲気が変わってきている。現在、そこでの事件性のある事例は無いのだと思うが、どうであろうか。

山本委員：

今はカラオケ店でのトラブルの報告は全く無い。

事務局：

P T A一日街頭指導の感想コメントの中に、カラオケ店の店員の方が、子どもたちに対して、正しい使い方や喫煙等の禁止についてしっかりと指導している様子を見た、という内容の話があった。店側の方でもかなりきちんと対応しているようである。

・事務局より資料5～7に基づいて説明（資料参照）

資料5 育成委員協議会研修（資料P8）

資料6 環境浄化活動・立入調査（資料P9）

資料7 健全育成活動（社会を明るくする運動）（資料P9）

<質疑>

伊藤委員：

第2回の育成委員研修会の講話概要の中で、児童虐待について「特に今年

はコロナの影響でさらに多くなっている。」とあるが、これは一般的な話なのか、それとも上越市のデータがあってこういう話をされているのか。

事務局：

実際に上越市の場合もこういう傾向が出ているという話があった。

小林委員：

図書類自動販売機について。設置業者と連絡がとれないようだが、土地所有者の方から連絡を取ることはできないのか。

山崎所長：

地権者は地元の方であり、年1回連絡をとっている。毎年、立入調査の実施後に状況報告も兼ねて、借地契約の再更新をしないように、というお願いの文書を教育長名で出している。しかし、おそらく地権者から連絡は取っていないと思われる。そこまでは確認していないが今後確認する必要があると思う。

(2) 若者支援事業の進捗状況（公開）

- ・事務局より資料8に基づいて説明（資料参照）

資料8 若者育成支援事業（資料P10～13）

<質疑>

伊藤委員：

P10～11の利用者年齢層の表において、年齢の刻み方の幅がばらばらであるが、これは何に基づいてこういう区切りにしているのか。

事務局：

特に正確な基準があって決めているものではない。本来ならば数字で5歳刻みや3歳刻みというように分けた方がよいのかもしれないが、ここでは、高校生とそれ以後、それ以後についても20歳代の前半、後半という考え方で分けた。特にそれ以上の根拠があるものではない。

大堀委員：

P12にある親の会について。悩みの中の内容の中に「ネット依存」がある。これについては悩みの中でも病的な感じがしなくもない。これに対しては医療機関を紹介するなど、専門家と連携することはあるのか。

事務局：

親の会は親同士で悩みを出し合う場であるので、その中で「こうしたら上手くいった。」「それは、医療機関に繋いだほうがいいよ。」などという話が出てくることはあると思う。また、並行してカウンセラーによる個別面談もしている中で、「それは医療機関での治療が必要ですね。」という話が出てくることはあると思う。

山崎所長：

補足であるが、我々が親の会を主催する目的は、家に居て子どもと接するだけで孤立しがちな親が、同じような悩みをもつ親同士で思いを話したり聞いてもらったりしながら少し気持ちを楽にし、子どもに対する理解を深めていくことである。その上で、家に帰って子どもと接する中で、子どもが少し家から出てみようと思うようになっていたり、家族の関係が改善されていったりするのではないかと思う。そういうことを親の会でねらっている。また、例えば昼夜逆転してゲームばかりやっているようなケースもあるが、自分から動き始めようとしめない段階では、その指導は学校に任せるという形をとっている。もちろん、学校からの依頼があれば我々も支援をする。学校は犀潟医療センターのようなゲーム依存の治療の場所を十分に知っているので、必要があれば学校からの指導があるものと考えている。学校に在籍している間についてはこのようにとらえている。

小林委員：

Fitについてアピールするという話があったが、具体的にはどんな団体と連携してアピールしたり協力してもらったりしようとしているのか。

山崎所長：

我々として今年はできる限りのアピールしようと考えている。具体的には新聞や市の広報誌など可能なものを全て使ってアピールをした。さらにこれからアピールしなければならないところは、福祉関係で地域に最も密着している機関や団体である。先日、10月13日には地域包括支援センターの研修会におじゃましてFitについて説明をした。「皆さんが地域に入って活動するなかで、もし該当するような若者がいたらFitを使ってください。」とアピールをしてきた。また、この11月に民生・児童委員の皆さんの研修会がブロックごとに9箇所ほどで開催されるが、そこを全て回ってアピールしてき

たいと思っている。

吉岡委員：

先ほど虐待についてコロナの影響で増えているという話があったが、不登校についてはどうだろうか。コロナのために学校が休校になる期間があったが、学校を再開した時点で登校できなくなるなど、子どもたちに影響は見られなかったのか。

飯塚委員：

私の認識として、コロナにより不登校が増えたとは聞いていない。ただし、不登校は全体として年々増えている。コロナだからということではなく、どういった支援を保護者や関係機関と共にしていくのかが学校の大きな課題である。一方で、虐待は増えているのはおそらくコロナの影響であると思われる。それが本当の理由かどうかは分からないが、臨時休校の期間があり親子が一緒にいる時間が非常に長くなったことが影響しているのではないかと考えられる。これは少し心配なことである。

鈴木委員：

私も虐待については増えていると思う。すこやかにくらし包括支援センターに要保護児童対策連絡協議会があるのだが、そちらの方でもコロナの影響が出ているという話があった。家の中で家族と過ごす時間が多くなり、良い時間が多くなったのかと思ったのだが、逆にストレスを感じる子どもや親がいたようだ。親自身も精神的なことや仕事のことなど、自分も迷っている中で、子どもと密接に接していることが虐待に繋がったというケースも多かったのではないと思う。また、発達に特性のある子どもについて、普段は日中学校に行っていて、親も仕事に行っているので接点が少なかったものが、コロナで長時間接している状況の中で、お互いに苦しい思いをして虐待に繋がった、というケースを聞いている。不登校について、やはり数は増えていると思う。私が今対応している子どもたちの中に、休校の期間に家の中にしか居ることができず、ユーチューブなど動画の視聴に長い時間を費やしながら生活を送っていた子どもがいる。その子どもたちは学校が再開した後も生活リズムやサイクルがなかなか元に戻らない。そのため、意欲やモチベーションが上がらず、朝起きられなかったり、学校に行っても体調不良であったりし

て、登校することが難しい状況になっている。そういう子どもたちが沢山いる。あっという間に生活が乱れてしまうが、立て直すのには時間がかかる。そこで、生活カレンダーを一緒に作って親と取り組んでもらうなどしている。

伊藤委員：

生徒によっては、毎日学校に来ることによって繋がっているということがある。そういう生徒にとっては、学校に来られない期間に有職少年との付き合いが増え、そちらの方に流れてしまい、いざ登校が始まってもなかなか学校に出てこられなくなってしまう、というケースがある。また、家にずっといるために家族と常に顔を突き合わせていて、親子関係が悪くなってしまったというケースもある。普段親がうるさく言う場合、学校に行っている間は言われずに済んだものが、ずっと一緒にいるために言われてしまう。そのためにもちょっと不安定になっているケースもある。

(3) 情報交換（公開）

山本委員：

コロナについてははっきりしないが、今年に入って犯罪で検挙された少年の数は現在で24人である。春先は少し減っていたが、9月末現在で昨年と同数になっている。特に、何が多いという傾向はないが、最近小さい子どもの万引きが数件ある。何を取ったかという点、鬼滅の刃というアニメのグッズである。タバコを吸ったとか、夜遊びをしていて警察に補導された人数は昨年とほぼ同じ数であり、9月末で123人になっている。そのうち70%が高校生であり、その多くが深夜徘徊である。午後11時以降に出歩いていた場合に夜遊びとして補導している。また、最近では夜中の騒音苦情での110番通報が多くなっている。例えばスケートボードで歩道の坂を下ると大きく音が響き、苦情が入るというケースがある。コロナの影響として、4月、5月は夜間に出歩いている高校生が少なかったが、その後落ち着いてからは少し夜遊びをしている者が見られるようになってきている。犯罪の検挙数としては、県内とほとんど変わらない状況である。県内全体としては減っているが、上越では昨年と同数という結果である。また、先ほど虐待の話が出たが、警察で取り扱っている件数は昨年と比べて若干減っている。ただし、夫婦げ

んか等の DV について、格段に取扱件数が増えてきている。特に、子どもの前で殴り合いの夫婦げんかをすれば、規定上は心的虐待ということで児童虐待に当たることになる。その点については親に話をして、虐待として取り扱って児相に通告している。おそらく、児相の方でも虐待の件数が増えているのではないかと思う。警察としては、現在のところコロナの影響が大きく出ているのは DV 関係ということになる。皆さん家にいる時間が長くなり、いろいろストレスが溜まっているのではないかと考える。ところで、この春から少年サポートセンターが高田駅前に移転して活動している。センター長は上越での勤務が3回目となり、上越のことをよく知っているので、何かあったらサポートセンターを利用していただきたい。

井部委員：

上越市親の会について、これは本当に大事な取組である。どこにも持って行きようのない親の気持ちを救ってあげられる所だと思うので、これからも続けていってもらいたい。

古川委員：

P T A について話をする。春から学校行事が全て中止になり保護者が学校に行く機会が極端に減っている。そのため、保護者同士で顔を合わせて情報交換をしたり愚痴を言い合ったりする場面が非常に少なくなっている。保護者の皆さんも、どうやればいいのか、どこに相談すればいいのか分からなくなって、かなりストレスを溜めているという話である。

飯塚委員：

今、学校も苦慮している。1学期のあらゆる行事が中止または延期になっている。小学校では運動会はだいたい春に開催するのだが、それが実質できなかった。そこで、中止にした学校と秋に延期した学校がある。それも、本来は沢山の人に来てもらいたいのだが、感染防止のため計画を見直さなければならなくなっている。半日日程にしたり学年別を実施したりするなど、学校規模に応じていろいろ考えなければならない状況である。また、1学期にいろいろな行事ができなかったためのしわよせが2学期に生じており、学校の教員自身も少し疲れているかもしれない。そうならないように何とかしていきたいと思う。そういった中で、6月に子どもの小さなけがが多くなっていて、

だんだん慣れてきたところで夏休みに入った。9月ぐらいになってやっと子どもの目の輝きが出てきたなという感触がある。これは中学校区の教員の情報交換の中で出てきた感想である。しかし、今後学校行事が立て続けに行われると、また子どもたちにストレスが出てくるのではないかと少し心配している。

鈴木委員：

ストレスの話があったがこれに関連して、私が今関わっている子どもの中で自傷行為が多くなっている。学校に行っている子どもであれば学校の先生が見つけたり、子ども自身が担任の先生と話しをしていたりしてわかることもある。しかし、相談する機会のない家にいる子どもや自分で抱えてしまっただけでわからないように傷をつけている子どももいる。子どもたちが自傷に入る前に相談場所や話しやすい機会をつくるなど、予防的な関りを丁寧に行っていく必要がある。また、そういう思いを抱えたまま生活し学校に行っている子どもも沢山いると思うので、街頭指導の中で大人から声をかけてもらったり、見守ってもらったりすると大変ありがたいと思う。

伊藤委員：

当校では文化祭の中止の案内を出したが、保護者の皆さんには観ていただく機会を設けることができず、ただ謝るばかりである。今年は行事の中止によって、子どもたちが発散する場所がなくなっている。もう一つは、行事の際にクラス単位でいろいろな取組をし、それによって子どもたちが人間関係を作り、クラスが段々まとまっていくのであるが、今年は全然その機会が無いままである。特に1年生はいろいろな中学校から集まってきて新しく人間関係を作るというときに、それができていない。そのため、何か落ち着かない様子がある。具体的に大きな問題が起きているというわけではないが少し心配である。今後はコロナ対策をしながら、そういったことを配慮して取り組んでいかなければならないと考えている。

(4) その他（公開）

なし

9 問い合わせ先

上越市教育委員会社会教育課 青少年健全育成センター

TEL : 025-544-4690 (内線 3003)

E-mail : keniku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。